

IIAS NEWSLETTER

International Institute for Advanced Studies

April 2009

65

 財団法人
国際高等研究所

<http://www.iias.or.jp>

INDEX

報告	研究活動報告(2月1日～3月31日)
報告	第64回理事会・第57回評議員会を開催(3月17日)
報告	2008年度第3回企画委員会を開催(2月27日～28日)
報告	高等研の正副所長が交代(4月1日)
紹介	2009年度新規研究プロジェクト(8課題)
報告	東京シンポジウム「宇宙と人間」開催(3月7日)
報告	高等研公開講演会「アンコール・ワットと国際貢献～カンボジアで人材養成18年～」(2月28日)
報告	高等研フェローの招へい(3月3日)
報告	ノーベル賞の小林 誠 高等研フェローが来所(2月27日～28日)
報告	けいはんな研究都市立地機関と連携イベントを実施(2件)
報告	2008年度研究員の退職(3月31日)
参加者募集	第4回合同見学会「IIAS・RITE・OMRON」開催(5月14日) 高等研公開講演会「地震を知って震災に備える」 ～京阪奈地域を中心として～(5月23日) 高等研「雅松庵」茶会開催のお知らせ(6月6日)
IIASカレンダー	●研究活動(4月1日～6月30日) ●イベント
お知らせ	●「送別・懇親会」を実施(3月27日)

報告

研究活動報告(2月1日～3月31日)

研究プロジェクト

研究プロジェクトのタイトル	開催日	研究代表者	参加者数
音声～音声の音響的特長と感情表現～	2月3日(火)～5日(木)	藤村 靖	5
共同研究の法モデル	2月5日(木)～3月5日(木)	北川善太郎	延べ42
グローバリゼーションと市民社会	2月13日(金)～14日(土)	仁科 一彦	4
19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究	2月21日(土)～22日(日)	吉田 忠	8
高度計測技術の発展と埋没	2月21日(土)	本河 光博	15
創発研究の新しい展開	2月23日(月)～24日(火)	安富 歩	13
第15回コピーマートフォーラム(学術研究機関における学術情報システムのモデル構築・共同研究の法モデル)	2月26日(木)	北川善太郎	12

研究プロジェクトのタイトル	開催日	研究代表者	参加者数
2008年度第3回企画委員会	2月27日(金)～28日(土)	金森順次郎	26
文化財保全技術(第1分科会)	2月27日(金)	志水 隆一	4
文化財保全技術	2月28日(土)	志水 隆一	32
第14回コンピューショナル・マテリアルズ・デザイン(CMD)ワークショップ(於:阪大)	3月2日(月)～6日(金)	赤井 久純	80
19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究	3月5日(木)～6日(金)	吉田 忠	9
スマとシステム 一知のあり方	3月5日(木)～6日(金)	亀本 洋	14
生物進化の持続性と転移	3月6日(金)～7日(土)	津田 一郎	19
細胞履歴に基づく植物の形態形成	3月7日(土)	鎌田 博	9
スキルと組織	3月7日(土)	榎木 哲夫	12
数量的アプローチによる日本経済の比較的研究	3月8日(日)	宮本 又郎	20
ものづくりにおける実践知を体得した人材の育成と継承に関する調査研究会(於:東京)	3月9日(月)	岩田 一明	7
認識と運動における主体性の数理脳科学	3月11日(水)	沢田 康次	19
共同研究の法モデル・学術研究機関における学術情報システムのモデル構築(合同)	3月12日(木)	北川善太郎	7
ナノ物質量子相の科学	3月13日(金)～14日(土)	金森順次郎	51
生命科学の発展に対応した新しい社会規範の構築(ワークショップ:京大との合同開催)	3月22日(日)	位田 隆一	18

3月17日(火)に第64回理事会・第57回評議員会を開催。2009年度(平成21年度)事業計画及び収支予算の承認、理事・評議員の選任、副理事長の選任が行われました。

その内容は下記の通りです。



2009/3/17 理事会・評議員会

1. 2009年度事業報告収支予算の承認

(1) 組織運営方針の確認

1. 組織運営支援力の強化:尾池和夫新所長を迎え、新たな研究体制のスムーズな発足と整備
2. 情報発信機能の強化:新たな情報発信のあり方を検討・整備
3. 高等研遊休施設の再活用化策の検討:利用頻度の低い所長公館、住宅棟などの有効活用を検討
4. けいはんな立地機関との連携強化:共催・後援事業活動などを通じ、地域社会への貢献度を高める
5. 新公益法人制度への対応:申請作業を2009年度内に完了し、2010年度の認定取得をめざす

(2) 研究事業

これまでの研究実績に立脚して、既成の学問区分を超えたコ

ミュニティの展開およびインフラストラクチャ構築の両面の研究を行い、それらを連結して、近未来社会の諸課題の解決に資するとともに、他の研究組織での研究推進に利用されるモデルを提示することを目的として、本年度から、総合課題「近未来社会の課題解決のための研究共同体活動の展開」を実施します。

主な内容は以下のa～dです。

- a. 研究プロジェクト:既存13プロジェクト、新規8プロジェクト、計21プロジェクトの研究共同体を展開。
- b. 覚書等に基づく共同研究:3研究プロジェクト
- c. 研究成果の取りまとめ:2008年度終了の6プロジェクトの研究総括と成果の取りまとめ
- d. その他:国際フォーラム、研究者招聘事業、専門的人材養成事業

2. 2009年度収支予算の承認

(1) 予算概要

2009年度の資産運用収入は、円高インパクトにより利回り低下、前年予算比約1,400万円の減少、利回りは2.0%から1.7%へ0.3ポイントの低下を想定しています。

外部資金の導入については、当年度も3,900万円の科学研究費補助金特定奨励費の確保をめざします。

研究事業費支出は、前年予算同額を確保し、前年以上の研究事業推進が可能な状況とします。管理費予算では、近年先送りしてきたセキュリティ・施設設備保守及び環境保全整備を実行し、研究環境の維持に努めます。

これらの財源は役員報酬の圧縮により捻出し、研究事業費及び管理費を合わせた総額は、前年度予算から約1,800万円の圧縮を図ることとします。

また、中長期的な施設・設備環境維持への取組みとして、特定資産取得支出として、3年後を想定した空調設備改修のための積立に1,300万円の積立資産取得支出を予定しています。

(2) 収支

ア.事業活動収入総額 114百万円

イ.事業活動支出総額 172百万円

ウ.事業活動収支差額 ▲58百万円(前年比4百万円の改善)

2009年度の最終収支は、事業活動支出の圧縮に努めるものの、資産運用収入の減少と、将来に備えた施設・設備環境維持への積立投資のため、約7,500万円を研究事業推進基金より取崩(前年予算比約1,000万円増)す予定です。

3. 監事・評議員の選任

前回理事会・評議員会以降、関係諸団体等の役員交代に伴う理事7名、評議員8名の辞任があり、理事7名及び評議員6名の選任が行われました。

退任される方の退任日は2009年3月31日です。新任の方の就任日は2009年4月1日で任期は前任者の残任期間の2010年3月31日までです。(以下名簿は敬称略)

(退任理事)

西室 泰三 日本経済団体連合会評議員会議長
安田 國雄 奈良先端科学技術大学院大学学長
大宮 久 京都経営者協会前会長
金森順次郎 国際高等研究所所長
坂本 邦夫 国際高等研究所前事務局長
齊藤 紀彦 関西経済同友会代表幹事
小宮山 宏 東京大学総長

(新任理事)

米倉 弘昌 日本経済団体連合会評議員会議長
磯貝 彰 奈良先端科学技術大学院大学学長
位高 光司 京都経営者協会会長
佐藤 行則 国際高等研究所事務局長
中野健二郎 関西経済同友会代表幹事
濱田 純一 東京大学総長
松本 紘 京都大学総長

(退任評議員)

位高 光司 日新電機会長
岡田 益吉 国際高等研究所副所長
南 務 大阪府立大学学長
中川 久定 国際高等研究所副所長
松園万亀雄 国立民族学博物館館長
北川善太郎 国際高等研究所副所長
久米 健次 奈良女子大学学長
野上 智行 神戸大学学長

(新任評議員)

奥野 武俊 大阪府立大学学長
川北 稔 国際高等研究所副所長
須藤 健一 国立民族学博物館館長
田中 成明 国際高等研究所副所長
野口 誠之 奈良女子大学学長
福田 秀樹 神戸大学学長

4. 副理事長の選任

西室泰三副理事長の退任に伴い、後任として日本経済団体連合会評議員会議長の米倉弘昌氏を選任した。

報告

2008年度第3回企画委員会を開催(2月27日～28日)

2008年度第3回企画委員会が、企画委員、上級研究員、特別委員、フェロー等26名が出席して2009年2月27日～28日に開催されました。

委員会では、金森順次郎所長から2008年度の研究事業の実施状況の報告の後、2009年度の研究事業計画案の概要について、科学研究費補助金「特定奨励費」に申請している研究事業「近未来社会の課題解決のための研究共同体活動の展開」を中心に紹介があり、審認されました。

続いて、尾池和夫フェロー(現所長)による新規提案プロジェクトの紹介の後、2008年度の研究代表者より、ご自身のプロジェクトについての実施状況などについて報告があり、質疑応答が行われました。

さらに、金森所長から、3月31日のご退任に際し、『現正副所長体制8年間の足跡と今後の高等研への期待』として発

表があり、これを受けて、出席者からの謝辞を含め活発な意見交換が行われました。



2008/2/27 企画委員会

任期満了により3月31日付けで、金森順次郎所長、岡田益吉副所長、北川善太郎副所長、中川久定副所長が退任されました。金森所長には2001年4月から8年間、本研究所の発展に一方ならぬ御尽力を賜りました。紙上をお借りして、衷心より厚く御礼申し上げます。

以下にそれぞれの略歴を記載します。

尾池 和夫 (おいけ かずお)

財団法人国際高等研究所 理事・所長

●専攻分野:地震学(特に地震発生機構、地震テクトニクス、地震前兆現象など)

●生年:1940年(昭和15年)



●略歴:

1963年3月 京都大学理学部(地球物理学科)卒
 1971年3月 京都大学理学博士
 1963年4月 京都大学防災研究所助手
 1973年5月 京都大学防災研究所助教授
 1988年12月 京都大学理学部教授
 1994年11月～1996年11月 京都大学評議員
 1995年4月 京都大学大学院理学研究科教授(改組による)
 1997年4月～1999年3月 京都大学大学院理学研究科長・理学部長・評議員
 2001年4月～2003年12月 京都大学副学長
 2003年12月 京都大学総長
 2004年4月～2008年9月 国立大学法人京都大学総長
 2008年10月 財団法人国際高等研究所フェロー
 2009年4月 財団法人国際高等研究所所長
 ●学会等の主な役職:
 1985年～1986年 地震学会委員長
 1991年～1997年 日本学術会議地震学研究連絡委員会委員長
 1995年～1997年 日本学術会議阪神・淡路大震災調査特別委員会委員
 1996年～1998年 京都府、京都市、大阪府、大阪市活断層調査委員会委員長

4月1日より新しく、尾池和夫所長、川北稔副所長、志村令郎副所長(待遇)、田中成明副所長がそれぞれ就任いたしました。任期は2011年3月31日までの2年間です。

尾池所長が推進・展開する新しい研究体制に皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2004年～2008年 国立大学協会理事

2008年～ 日本ジオパーク委員会委員長

●その他:

地震予知連絡会委員、科学技術・学術審議会臨時委員、国立極地研究所評議員、京都市都市計画審議会委員、京都市防災会議専門委員などを歴任

●学会活動等:

日本地震学会会員、日本測地学会会員、自然災害学会会員、災害情報学会会員、長崎県地学会会員、俳人協会会員、氷室俳句会副主宰、氷室俳句会京都支部長

川北 稔 (かわきたみのる)

財団法人国際高等研究所 評議員・副所長

●専攻分野:イギリス近世史・世界システム論

●生年:1940年(昭和15年)



●略歴:

1963年3月 京都大学文学部西洋史学科卒業
 1967年3月 京都大学大学院文学研究科博士課程中退
 学位 文学博士(昭和58年・大阪大学)
 1969年4月 大阪大学文学部助手
 1969年4月 大阪女子大学学芸学部社会福祉学科講師
 1970年4月 同助教授
 1976年4月 大阪大学文学部助教授、1987年4月教授
 1997年8月～1999年7月 同大学院文学研究科長・学部長
 2000年4月～2004年3月 同附属図書館長・総長補佐
 2004年3月 大阪大学を定年退職、4月大阪大学名誉教授
 2004年4月 名古屋外国語大学教授・大学院研究科長
 2004年～2006年 国際高等研究所フェロー
 2005年4月 京都産業大学客員教授～現在に至る

●学会等の主な役職:

2001年～2004年 日本西洋史学会代表
1998年～ Fellow of the Royal Historical Society
2006年9月～2007年9月 文部科学省文化審議会委員(文化
功労者選考分科会)
現在 人間文化研究機構教育研究評議員、神戸市外国語大
学理事

●受賞歴:

1985年 東京海上各務記念賞『工業化の歴史的前提』
1996年 青少年読書感想文コンクール課題図書『砂糖の世界史』

田中 成明 (たなか しげあき)

財団法人国際高等研究所 評議員・副所長

●専攻分野:法哲学

●生年:1942年(昭和17年)



●略歴:

1964年3月 京都大学法学部卒業
1980年3月 法学博士(京都大学)
1964年4月 京都大学法学部助手
1967年4月 京都大学法学部助教授
1978年3月 京都大学法学部教授(法理学講座)
1991年4月～1993年4月 京都大学評議員
1992年4月 京都大学大学院法学研究科教授(組織変更による
配置換え)
1997年4月～1999年3月 京都大学大学院法学研究科長・法
学部長・評議員
1999年4月～2004年9月 放送大学客員教授(非常勤)
2002年2月～2003年3月 大学評価・学位授与機構研究評価
部教授(併任)
2004年4月～2005年9月 国立大学法人京都大学理事・副学長
2005年4月 京都大学名誉教授
2005年10月 関西学院大学大学院司法研究科教授～現在
に至る

●学会等の主な役職:

1993年11月～1997年11月 日本法哲学会理事長
2001年3月～2004年10月 総合科学技術会議・生命倫理専
門調査会専門委員

2001年12月～2004年11月 司法制度改革推進本部・法曹
養成検討会座長、同法曹制度検討会委員
2002年5月～2008年3月 大学設置・学校法人審議会大学設
置分科会特別委員
2004年4月～2006年4月 日本学術振興会・21世紀COEプロ
グラム委員会委員
2004年4月～現在に至る 大学評価・学位授与機構・法科大
学院認証評価委員会副委員長
2005年3月～2008年3月 法科大学院協会副理事長
2005年10月～現在に至る 日本学術会議会員(第1部)
2005年6月～現在に至る 中央教育審議会大学分科会法科
大学院特別委員会座長

●学会活動:日本法哲学会会員、日本法社会学会会員
日独法学会会員、日米法学会会員

志村 令郎 (しむら よしろう)

財団法人国際高等研究所 評議員・学術参与(副所長待遇)
(現職:大学共同利用機関法人自然科学研究機構長)

●専攻分野:分子生物学

●生年:1932年(昭和7年)



●略歴:

1956年 京都大学理学部卒
1958年 京都大学大学院理学研究科修士課程修了
1963年 米国ラトガース大学大学院(博士課程)修了
1963年 米国ジョンスホプキンス大学医学部研究員
1963年 米国ジョンスホプキンス大学医学部インストラクター
1969年 京都大学理学部助教授
1985年 京都大学理学部教授
1986年 岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所教授(客
員及び併任)(1994年まで)
1996年 京都大学定年退職,京都大学名誉教授
1996年 生物分子工学研究所所長(2002年まで)
2001年 独立行政法人日本学術振興会ストックホルム研究連
絡センター長(2004年まで)
2004年 大学共同利用機関法人自然科学研究機構長～現在
に至る

①メタマテリアルの開発と応用（3年計画）

研究代表者：石原 照也（東北大学大学院理学研究科教授）

メタマテリアルとは、電磁波の波長よりも小さな周期の人工構造を持ち、自然界では得にくい誘電率と透磁率が同時に負になり、その結果負の屈折率を持つ人工物質のことです。

この物質では、波数ベクトル k 、電気ベクトル E 、磁気ベクトル H が、通常の場合と異なり左手系をなすことから、左手系物質（Left Handed Material）とも呼ばれています。

1999年英国のPendryが金属を用いて人工的に構築する処方箋を示し、2001年には米国のSmithらがマイクロ波領域での試料作製の実験に成功しました。その後、従来の光学原理を覆す物質の研究は、欧米を中心に急速な発展を遂げ、短波長化が進展し、最近では可視領域

に達したとの報告もあります。また、左手系物質のみならず、金属微細構造を利用した誘電率の制御、巨大光学活性、自由に制御されたインピーダンスを持つ表面など、広い意味でのメタマテリアルの世界はどんどん広がっています。

我が国では、メタマテリアルの研究は欧米に比べて出遅れた感があり、組織だった研究がなされていません。我々は、マイクロ波から、テラヘルツ波、可視領域までの広い周波数領域を横断的に統合して、従来交流の少なかった分野を融合することにより、研究者がそれぞれ固有のバックグラウンドを超えて交流し、急速な発展を遂げているメタマテリアル分野で我が国の地歩を固めることを目指します。

②受容から創造性へー近現代日本文学におけるスタンダードの場合ー（3年計画）

研究代表者：ジュリー ブロック（企画委員／京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授）

日本では、スタンダードが幾度かに渡り顕著に流行した時期があります。我々は、まず、とりわけフランス文学を自ら進んで受容した近現代日本文学の作家達の諸作品に焦点を当て、各々がどのようにスタンダードを受容し、影響されたかについて概観します。中でも大岡昇平は、生涯に渡りスタンダードの翻訳者、紹介者、研究者としてスタンダードを受容し続けただけでなく、同時に偉大な小説家でもあるという点で、比較文学的観点から受容と創造性の関係を解き明かす上で重要なモデルとなると考えています。

スタンダードに傾倒した作家らの作品そのものにより深く迫り、近現

代日本の作家達が如何にしてスタンダードの影響を独自の創造性へと発展させ、普遍性を持つ文学作品へと昇華させたかを明らかにしたいと考えています。

近現代の日本の作家達が活動したそれぞれの社会背景などを踏まえ、作家達はどのように社会に対して向き合おうとしていたのか、個人或は社会にとっての精神的諸価値をどのように捉え、また発信しようとしていたのか、それらはどのような日本語の文体として表現されているか、などを論じます。さらに、日本の作家達が、海外からの影響を受けながら各々の獨創性を発揮していく様相の中に「日本的創造性」と呼べる要素が存在するかどうか考察を加えます。

③法と倫理のコラボレーションー活気ある社会への規範形成ー（3年計画）

研究代表者：服部 高宏（企画委員／京都大学大学院法学研究科教授）

種々の専門分野に分化した現代社会では、「法」は広義の社会の基本構造であり、専門・分化した社会領域のすべてを規律対象とすることができます。しかし法がどのようにしてこれらを規律するかは、対象となるサブシステムの特性やそれを動かすコードの独自性、さらには適切な規律手法の選択など、困難さがあるため、法を制定・運用する側やそれを学問対象とする法学にとって困難な問題となっています。

今日では、法的規制の緩和や撤廃が趨勢となっていますが、それはサブシステムの無秩序化を意味するわけではなく、むしろサブシステムそれぞれの内部での規範形成が活性化し、法はそれを支援し、さらにはそれと適切な協働関係に立つことが求められています。そのような規範形成との関連で注目されるのは、専門職倫理や組織倫理など、各専門領域に

おいて独自に形成・維持される倫理規範の意義が高まっていることです。

企業倫理・経営倫理、情報倫理・マスコミ倫理、生命倫理・医療倫理など、様々な社会領域で起こるそれぞれに特有の問題に焦点を合わせた、独自の倫理が展開されています。このような倫理の再評価、倫理の復権による秩序形成の動向に対して、法の側ではこれをどのように受け止め、評価し、さらに法自身がそれとどのような仕方にかかわりを持ち、また持つべきか、また、倫理の基盤となる価値・価値秩序はどのようなものであり、何に由来するのかについて、我々は、現代社会における法と倫理との間の適切なコラボレーションの在り方に考察の焦点を合わせ、活気のある社会を可能にするための秩序形成の在り方を模索します。そして、現代の機能分化した社会における各サブシステム内の倫理の展開と、全体社会の構造である法とのあるべき適切な協働関係を探求します。

④18世紀における世界観の多次的交錯（3年計画）

研究代表者：石川 文康（学術参与／東北学院大学教養学部教授）

18世紀はさまざまな学問や文学・芸術が相互に乗り入れ、それぞれの分野自身を充実させただけでなく、さまざまな新しい知的営み（学問等）を基礎づけ、それらの発展を準備した時代です。

そこでは、広い意味での世界観がいわば多次的に交錯していました。たとえば、文学と哲学、哲学と神学、自然科学と文学・哲学、法学と哲学、倫理学と経済学、地理学と文学・哲学、数学と哲学、音楽と文学、錬金

術と文学、東洋思想（中国、インド、日本）とヨーロッパ思想の交錯、等々。言語の面でも、それまでのヨーロッパ学術言語であるラテン語と各国語との交錯、そして各国語間の翻訳が、活発に行われており、そこにも世界観の多次的交錯が見られます。

我々は、そのような事実を踏査し、今日ますます多次元化する世界観の方向性を探り、その可能性の開拓を目指します。

⑤ 21世紀における文化としての設計科学と生産科学（3年計画）

研究代表者：岩田 一明（フェロー／大阪大学・神戸大学名誉教授）

人間は歴史の過程で、科学的知識と知恵を増殖させながら、それらをベースとして、絶え間なく人工物（ハードウェア、ソフトウェアや仕組み・仕掛けなど）を設計・生産し、生活価値の向上を意図しながら利活用を行ってきました。

近年における人工物の創出に関わる設計科学と生産科学分野は、人口・資源・エネルギーなどの諸問題や価値規範の多様化の中で、新たな環境に直面しています。このことから、人工物の設計科学と生産

科学の役割や責務などを、生活様式や社会通念、制度などを含む文化の視点より再考する必要があります。

我々は、文化としての設計科学と生産科学（製造文化）を検討するために、前提となる現代的課題や制約条件などを抽出するとともに、それらの関係性を総合的に検証します。同時に、目指すべき、あるいは醸成してくる新しい製造文化の姿をイメージするとともに、それらの社会における合意形成のありかたを検討します。

⑥ 宇宙における生命の総合的考察とその研究戦略（3年計画）

研究代表者：海部 宣男（放送大学大学院文化科学研究科教授）

宇宙における生命の発生と存在について、新しい科学研究の流れが生まれようとしています。これは、地球生命の起源と進化の探求、無人探査機による太陽系諸惑星と衛星の探査、そして太陽系外の恒星をめぐる無数の惑星系の発見という3つの分野における研究がめざましく前進したことによるものです。

宇宙における生命の研究は、欧米諸国では既に本格化し始めており、実験・観測・探査と結びついて、思いがけない展開を迎える可能性も増大していますし、ひいては地球上の生命を位置づけ直すも

のでもあり、21世紀の新しい総合的科学的分野として発展すると考えられます。

我々は、太陽系内および太陽系外惑星系における生命のさまざまな可能性を、生物学、地球惑星科学、天文学、関連する諸分野の研究者による広く深い討議で探り、分野を超えて総合的な議論と研究を進め、今後の具体的な探査戦略を検討します。同時に、遅れている日本における宇宙生命の研究を大学や研究機関において推進し、国際的にも発信してゆく体制の強化を図ります。

⑦ 諸科学の共通言語としての数学の発掘と数理科学への展開（3年計画）

研究代表者：高橋 陽一郎（企画委員／京都大学数理解析研究所教授）

数学の研究には2つの方向性があります。

ひとつは、諸科学の発展から提起される課題を定式化し解決することによって諸科学に貢献するとともに、新たな数学を創出するという「豊かさ」を追求する方向です。

もうひとつは、数学者集団内部における相互作用を通して美意識に基づき、数学を深化させるという「美しさ」を追求する方向です。歴史的には両者が混在した形で数学は発展してきましたが、19世紀後半からは数学者と物理学者は明確に分化し始め、数学が無限を掌中に収めた1930年頃からは「美しさ」の追究が大きな潮流となり、「豊かさ」の追究は軽視されてきており、我が国における数学と諸科学の連携は底が浅いと言えます。

伝統を継承する欧米においては、近年、諸科学と連携した数学の重要性が再認知され、その発展のための施策がとられています。その象徴と言えるOdom報告書でも「数学の発展は特定の課題に関するロードマップに従ったプロジェクト方式は失敗するであろう」と指摘され、特に、まだまだ底の浅い我が国では、数学と諸科学が連携するという土壌作りから始める必要があります。

我々は、数学と諸科学の研究者が集い、互いに最新の動向と新たな課題に関する知見を交換し討議する場を設け、科学の共通言語としての数学を発掘して諸科学の発展に貢献することを目指します。同時に、既存の数学の理論や手法の限界を見定める作業を行い、新しい数学的視点あるいは理論の必要性を探知して今後の数理科学の新たな展開の端緒を拓くことを目指します。

⑧ 天地人—三才の世界：宇宙・地球と人間の関わり合いの新しいリテラシーの創造（3年計画）

研究代表者：尾池 和夫（国際高等研究所長）

人工衛星をはじめとする最近の宇宙・地球観測技術の発展は目覚しく、宇宙の構造や地球変動についての新しい情報が日々更新されていますが、これらの科学成果の最先端の情報は専門家以外には知る機会も少なく、また細分化・先鋭化されたこれらの情報を断片的に伝えられても、専門外の人々にはそれが人間社会の活動とどのように関わってくるのかを考えることは困難と言えます。

我々は、宇宙科学（天のグループ）及び地球科学（地のグループ）の専門家がそれぞれの分野の最近の研究成果とそれに至る研究

のプロセスを、自然科学とは比較的縁遠い人間社会の各分野で活躍している非専門家（人のグループ）に分かりやすく説明し、理解を得るとともに、人間社会との関わり合いを考慮に入れた「天・地」の先端研究の在り方について議論を深めることにより、個々の情報（Information）を確固たる知識（Knowledge）に変え、「天地人—三才」の新しいリテラシーを創造することを目指します。

「天・地・人」の異分野交流によって、社会的意義のある新たな価値の創造—イノベーションにつなげることを目指します。

2009年3月7日、学士会館(東京・神田)において、東京シンポジウム「宇宙と人間～未来を拓く人類の活動領域の拡大～」が高等研の協力の下、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の主催により開催されました。

当日は高等研研究プロジェクトに当初より関与していた牧井部長が参加しました。以下にシンポジウム参加の概要報告を掲載します。

…この東京シンポジウムは、高等研で2002年度から2006年度にかけて実施した研究プロジェクト「21世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題」の研究成果の総括を兼ねたもので、2006年12月16日に高等研で開催したシンポジウム「宇宙問題への人文・社会科学からのアプローチ」に続く第2弾のものである。

シンポジウムでは第1部として、「宇宙と人間～人文社会科学からのアプローチ～」と題して、①科学技術と人文社会科学との融合、②宇宙は人類の価値観をどのように変えるか、③宇宙のガバナンスをどう構築するかについて、木下富雄研究代表者・高等研フェロー他の研究参加者から、当該研究成果を取りまとめた高等研報告書0804「宇宙問題への人文・社会科学からのアプローチ」に基づいて報告があった。

木下フェローからは、このような取り組みは我が国だけのもので、本報告書の取りまとめは研究の終了ではなく、これから進めるべき宇宙空間利用に係る第一歩であることが強調された。

第2部では、「一新たな芸術表現の創出」と題して、高等研が1996年度から2000年度にかけて当時の宇宙開発事業団(NSDA)から受託研究として進めた「国際宇宙ステーションの人文社会学的利用に係る調査研究」の一環として取り上げた「芸術分野」の成果を踏まえ、JAXAが京都市立芸術大学、東京芸術大学及び筑波大学との共同研究で行った実験的取り組みについて紹介があった。

第3部は、「一人宇宙活動の未来」と題して、松本紘



第1部で発表する中川久定高等研副所長

京都大学総長、土井隆雄宇宙飛行士及び的川泰宣JAXA技術参与による討論が行われた。松本総長からは宇宙空間での太陽光発電とマイクロ波伝送、月における地下資源開発の可能性について、土井飛行士からは我が国における自前の有人輸送システムの重要性について、的川参与からは、将来の宇宙時代を担う青少年に係る宇宙教育の課題についてそれぞれ話題提供があり、意見交換した。

事前に申し込みのあった幅広い層の約250名の参加者からは、本格的に迎える宇宙時代への期待とともに、国際協調の下に進められる宇宙開発と我が国独自の取り組みの重要性つ

いて認識を深めたとの発言があった。

会場では、高等研とJAXAが共同で取りまとめた、高等研報告書0804「宇宙問題への人文・社会科学からのアプローチ」も配布された。



高等研報告書 0804

● 高等研報告書0804「宇宙問題への人文・社会科学からのアプローチ」

- ・研究代表者/木下 富雄・研究年度/2003～2006年度
- ・サイズB5版・頁数/本文416頁・価格/3200円(税別)
- ・ISBN978-4-906671-66-3

本書にご関心をお持ちの方々にご一読お薦めします。

なお、本書のお申し込みはコピーマート研究所

(TEL/075-315-9923・FAX/075-315-9368)まで。



総合司会の井口洋夫JAXA顧問(元高等研副所長)と研究代表者木下富雄フェロー

2月28日(土)に京都銀行協賛による2008年度第3回目の公開講演会を開催致しました。

石澤良昭 上智大学 学長を講師にお招きし、「アンコール・ワットと国際貢献～カンボジアで人材養成18年～」をテーマにした講演会には、115名の方々が参加され、石澤先生が長きにわたってカンボジアでつづけてこられた活動について熱心に聴講されました。

また当日は、国立国会図書館関西館のご協力により、アンコール・ワットに関する様々な関連資料や書物の展示も同時開催し、講演会参加の皆様方より好評を得ました。



2009/2/28 講演風景



研究個室にて

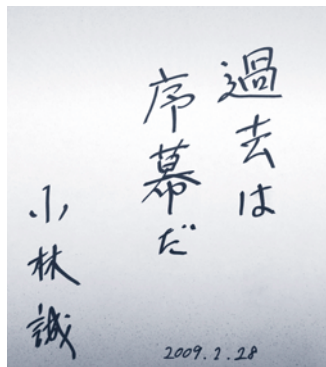
池原健二 奈良佐保短期大学特任教授・奈良女子大学名誉教授(生命科学・生物化学)を2008年度フェローとして新たに招へいしました。委嘱期間は2009年3月3日から1年間の予定です。

池原フェローは、生命の起源および生命の基本システムの形成過程についての研究、「生命の起源とその本質」に関する研究会の開催、生命の起源に関する学術論文や著書等の執筆活動を行う予定です。

2月27日、28日に開催した2008年度第3回企画委員会に、昨年ノーベル物理学賞を受賞された小林 誠 高等研フェロー・高エネルギー加速器研究機構名誉教授が出席されました。

企画委員会後の懇親会では、立石義雄 高等研理事長(オムロン会長)からお祝いのフランスワインが届けられ参加者一同で乾杯いたしました。

その席で小林 誠 高等研フェローから、受賞のメダルを披露され参加研究者との談笑に花を添えられました。高等研には「過去は序幕だ」の色紙も戴きました。今後の益々のご活躍が期待されます。



2009/2/28 高等研にいただいた色紙



2009/2/27 企画委員会後の懇談にて談笑

高等研とけいはんな研究都市の立地機関が相互の連携拡大により、地域社会への貢献度を高める目的で始めたイベントです。

2008年度は以下の2つの試みをしました。地域社会や立地機関からは「開かれつつある高等研」との声もいただきました。これを機会に今後はこのような地域連携のイベントの拡大を図り、地域社会への貢献を高めていく予定です。

第2回「科学のまちの子どもたち」フォーラムを実施(2月21日)



2009/2/1 金森所長講演風景

(財)関西文化学術研究都市推進機構が主催、(財)関西経済連合会と高等研の共催により市民参加フォーラム「けいはんな学研都市は子どもたちに何ができるか?」を高等研レクチャーホールで開催しました。

特別講演には金森順次郎高等研所長が「ノーベル賞とけいはんな学研都市」と題して、今年のノーベル物理学賞を受賞された高等研フェローの小林誠、南部陽一郎両氏やけいはんな学研都市にゆかりある内外受賞者の人柄や興味深いエピソードを交えての講演がありました。その他7テーマに亘っての大規模なフォーラムで教育機関、立地機関、行政など116名の参加者がありました。

国立国会図書館関西館様のご協力で同時開催した「ノーベル賞をうみだした原典」では、南部陽一郎氏や小林誠氏の受賞論文や博士論文などの貴重な展示がありました。

また、大阪大学と高エネルギー加速器研究機構共同による「小林-益川理論とBファクトリー」の展示がありました。

フォーラム参加者からは、「科学のまちにふさわしい展示内容」との声もいただきました。



国立国会図書館西館「ノーベル賞をうみだした原典」の展示

第8回ケータイ国際フォーラムを実施(3月11日)

京都府、京都商工会議所他が主催、高等研等の共催による「次世代技術M2Mセミナー」が高等研レクチャーホールで開催しました。

主会場の祇園甲後歌舞練場・八坂倶楽部とインターネットによる映像中継を配信するなど大掛かりなセミナーで、高等研には約60名、八坂倶楽部には約130名の技術者が参加し、これからの新しい通信形態であるM2M通信についての現状と技術動向について熱心な議論がされました。

2008年4月から採用していましたが下記2名の研究員は任期満了により、2009年3月31日に退職いたしました。

- 宮田 英治 神戸大学大学院法学研究科実務法律専攻修了
- 勝久 晴夫 大阪大学大学院法学研究科博士後期課程

春の高等研イベント実施案内（3件）

参加者募集 第4回合同見学会「IIAS・RITE・OMRON」開催（5月17日）

「来て、見て、知って、なるほど！」

本年度も、高等研と（財）地球環境産業技術研究機構（RITE）及びオムロン（株）京阪奈イノベーションセンタ（OMRON）の3機関で、第4回合同見学会を開催いたします。

高等研では近隣のコーラスサークルによるミニコンサートや茶室「雅松庵」でお茶をお楽しみいただく予定です。

お誘い合せのうえ、お気軽にご参加ください。

- 開催日：2009年5月14日（木）※事前申込不要
- 開催時間：13:00～17:00

参加者募集 高等研公開講演会「地震を知って震災に備える」～京阪奈地域を中心として～（5月23日）

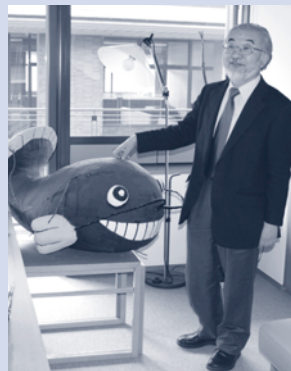
4月1日に、高等研所長に就任いたしました尾池所長を講師に、高等研の所在地でもある京阪奈地域を中心とした地震について講演会を開催いたします。

地震学の第一人者である尾池所長からわかりやすくお話させていただきます。

多数の皆さまのご聴講をお待ちしております。

- 開催日：2009年5月23日（土）
- 場 所：高等研レクチャーホール
- 対 象：高校生以上
- 参 加：参加無料・事前申込不要
- 講演要旨：（公開講演会チラシより抜粋）

2004年、インド洋に大津波を起こした地震はスマトラ沖地震と呼ばれているが、震源の点、つまり破壊の始まりの点はスマトラ島沖であっても、地震断層面の破壊は、その震源から北へアンダマン諸島に沿って、はるか1000キロ以上走った。海洋プレートが陸のプレートに出会って沈み込むと、ちょうどピンポン玉を指先でへこませたときのように、円弧状の沈み込み境界ができる。その陸側には島が隆起して、弧状に並ぶ。日本列島は「花綵列島」と呼ばれる。インドネシアは「エメラルドの首飾り」と呼ばれ、日本と同じように美しい自然を持っている。両方とも同じ仕組みでできた列島であり、同じような地震や噴火の現象が起こる列島である。



研究個室にて「なまず」と尾池所長

アンダマン諸島の巨大地震で起こった直接的な災害は、1つは大津波による被害、2つめは強震動による破壊、3つ目は地殻変動による沈降で起こる長期の浸水である。インドネシアと同じ変動帯に住む日本人々にも、巨大地震の仕組みをよく学習し、一方で住んでいる地元に起こる地震の仕組みを知って、それをもとに震災へ備える心構えを持っていただければと願っている。

参加者募集 高等研「雅松庵」茶会開催のお知らせ（6月6日）

茶道裏千家及び（株）福寿園のご協力を得て、第10回目を迎える恒例の茶会を開催致します。

茶席は、茶道裏千家家元 千玄室 大宗匠からご寄贈いただいた伝統的な様式の茶室「雅松庵」で、気軽にお茶を楽しんでいただくという企画です。

車椅子の方にもご参加いただけるよう立礼席もご用意しております。また本年はお手前の体験コーナーも設ける予定です。児童・生徒・学生のみならず、是非ご参加ください。（未就学児童は立礼席のみ参加可）

- 開催日：2009年6月6日（土）受付時間：10:30～15:00
- 担 当：本間宗壽 裏千家正教授
- 場 所：国際高等研究所茶室「雅松庵」
- 参加費：無料
- 定 員：150名（事前申込・先着順）

※往復はがきでのお申込に限ります。（1枚につき5名様まで）5月12日（火）必着にて、必要事項を記入のうえお申込ください。なお、詳細につきましては高等研HPにてご確認ください。「茶会」係までお問合せください。

お問合せ先、高等研「茶会」係

TEL:0774-73-4000 E-mail:lec0606@iias.or.jp

<http://www.iias.or.jp/>



2008年度茶会の様子

●研究活動(4月1日～6月30日)

■開催予定日	■研究プロジェクトのタイトル	■研究代表者
4月11日(土)	ナノ物質量子相の科学(幹事会)	金森順次郎
4月17日(金)～18日(土)	近代精神と古典解釈:伝統の崩壊と再創造	手島 勲矢
4月30日(木)	文化財保全技術(第1分科会)	志水 隆一
5月8日(金)～9日(土)	18世紀における世界観の多次元的交錯	石川 文康
5月13日(水)	文化財保全技術	志水 隆一
5月15日(金)～16日(土)	2009年度第1回企画委員会	尾池 和夫
5月29日(金)～30日(土)	受容から創造性へー近現代日本文学におけるスタンダードの場合ー	ジュリー ブロック
6月2日(火)～3日(水)	天地人ー三才の世界:宇宙・地球と人間の関わり合いの新しいリテラシーの創造	尾池 和夫
6月6日(土)～7日(日)	すきまの組織化	鳥海 光弘
6月19日(金)～20日(土)	ナノ物質量子相の科学	金森順次郎
6月30日(火)～7月1日(水)	ものづくりにおける実践知を体得した人材の育成と継承に関する調査研究会	岩田 一明

●イベント

■開催予定日	■事項・テーマ	■講師
5月14日(木)	第4回合同見学会(IIAS・RITE・OMRON)	—
5月23日(土)	公開講演会「地震を知って震災に備える」～京阪奈地域を中心として～	尾池 和夫
6月6日(土)	高等研「雅松庵」茶会	本間 宗壽



お・知・ら・せ

「送別・懇親会」を実施(3月27日)

3月31日でご退任される金森所長をはじめ、岡田・北川・中川の3副所長、新庄上級研究員、宮田・勝久の両研究員並びに坂本理事の総勢8名の送別の懇親会を3月27日高等研・コミュニティーホールで開きました。

当日は西村専務理事以下の事務局全員が参加し、先生方との和やかな懇談に時の経つのも忘れ、思い出話に花が咲きました。

長年の高等研運営にご貢献されましたことに改めて御礼申し上げます。

なお、掲載の鉛筆・細密画は、事務局の牧井部長が2003年に4名の正・副所長を描いたものです。実物は高等研応接室に飾っています。ご来所の折にはご覧ください。



学者村群像2003



2009/3/27 退任・退職される方々

編集・発行

財団法人 国際高等研究所

事務局長 佐藤行則

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地

TEL: 0774-73-4000 FAX: 0774-73-4005

http://www.ias.or.jp